

玉垂



参道を進む勅使行列（平成23年4月17日）

<http://www.okunijinja.or.jp>

日本の再生

東日本震災により、犠牲にられました方々に深く哀悼の意を表しますとともに、被災されました皆様方に衷心よりお見舞いを申し上げます。

当社では四月一日の月次祭に併せ「東北地方太平洋沖地震復興祈願祭」を斎行いたし、甚大な被害をうけた被災地の一刻も早い復旧並びに復興と、被災されました方々のご平安を祈念申し上げ、社頭におきましては各地の被災神社復興の義捐金募金活動を実施し、ご参拝の皆様方にご協力をお願い致しております。

また、被災者の方々への支援物資提供につきましては、岩手県の神社関係者と打ち合わせをさせて戴き、三月十七日に些少ではありましたが第一回目を実施させて頂きました。内容的には、粉ミルク、紙おむつ等小さいお子さんに関する品が主でありました。その後、四月二日に陸前高田市へ、翌三日に宮城県石巻市に「森のお茶」を送ることが叶いました。

報道等によりご存じの通り、被災地では難を逃れた神社の社務所等が避難所となっているところがあります。「緊急時にはお宮に逃げろ」が教えとなっている地区もあるとのこと。

この度の大地震は、物を中心とする文明社会の恩恵にのみ走り、また昨今の利己主義的な社会生活の有りに、神々が警鐘を鳴らされたような気がしてなりません。数多の犠牲者に思いを致す時、一日も早い「国土の復旧」「生活の復興」そして何より日本人の「心の再生」に向け努力することが私たち日本人の使命ではないでしょうか。

被災地では未だ続く余震や先の見えない原発事故など、何かと不安な日々をお過ごしのことと存じますが、この難局をどうか氏子の皆様とともに乗り越えられますようひたすらお祈り致します。

川勝平太氏(県知事)勅使役奉仕

平成二十三年は勅使行列再興五十年、小國神社振興会設立六十年の佳節にあたります。この慶年に去る四月十七日、勅使役として川勝平太知事をご奉仕されました。特に本年は、地域の伝統文化の保護育成と後継者育成を主旨とする「民俗芸能・民俗行事公開大会」が、森町教育委員会をはじめ文化協会・観光協会・商工会等のご協力のもと共催となりました。

また、勅使行列は当社所蔵の「延宝の一宮古記録」をもとに、廃絶した諸役を特別に復興し、鎌倉期の実態を想定して実施されました。川勝知事は勅使・遠江守大仏宣時役として、さらに前従・野部介役を岩瀬護静岡県議会副議長が、後従・佐野中務丞役を岩瀬静夫小國神社振興会長が務められました。



勅使役・川勝平太静岡知事(真中) (4月17日)

宮代公民館にて公開大会の開会式の後、「所役召し立て」となり出立、約一五〇名の行列が参進しました。勅使等の三役は騎乗し、烏帽子・大紋装束で供奉する様子は、まるで時代絵巻さながらでありました。また、一宮地区七町内会の子供会も各々作成した樽神輿を担いで参加し、樽神輿には東日本大震災復興を祈り「がんばれ東北」のメッセージがかかげられました。

神社に到着した一行は参道を進み、駒止の杉付近で下馬され、公開大会閉会式に臨まれました。閉会式では、川勝勅使役と岩瀬前従役より、和歌を三首づつご披露いただき諸行事は無事終了となりました。本年の知事の勅使役奉仕また公開大会の共催を契機として、この伝統ある行事が更に発展し、次世代へ末永く継承されていくことを期待します。



花籠の装い (4月17日)

川勝平太静岡知事献詠

・勅使行列
しきしまのやまと想ほゆ森町の
小國神社に勅使出で立つ

・御祭礼に寄せて
名にし負う遠州一の宮前に
つどいし人ら幸くあれかし

・小國神社
宮川に花の舞い散るまほろばの
やしろの杜は常若に萌ゆ



公開大会にて川勝知事・和歌をご披露 (4月17日)

岩瀬護静岡県議会副議長献詠

・吾か心なる小國神社に詣つ
一の宮夫婦契りてはや六十路
けふの拍手杜にひ、さぬ

・東日本大震災に思ひをいたして
みちのくと吾かふしのくに限りなき
地固め祈るけふにもあるかな

・川勝平太知事勅使役として小國神社に参向
さなからに歴史絵巻か花ふ、さ
浴ひつ、勅使駒をす、むる



町指定民俗文化財・巫女舞 (4月17日)

古式舞楽「本膳」の復興

本年の例祭舞楽（国指定重要無形民俗文化財）は、「民俗芸能・民俗行事公開大会」と一部共催で実施されました。その内容とは、本番前日の試楽を奉奏する日（本年は四月十六日）の昼食におきまして古式に則り「本膳」が復興・再現されました。

例年、試楽が行われる日の昼食では、舞踏屋に舞人が一堂に会し「本膳」として食事を共にします。現在は、料理の献立の内容はかなり変わってきており、また、参加する役職・人数も関係者のみとなっております。



古式舞楽「本膳」の復興（4月16日）



本膳の献立（4月16日）

そこで、この度の公開大会では、江戸時代の形式へと復興を試み、賄関係の古記録である「一宮祭礼舞堂諸用記」をもとに再現いたしました。記されている献立の食材の中には、現在では手に入れることが困難な品もあり、代用された品もありました。また、膳の数は七十にもおよび普段の賄い人では手が足りず、篤志者にご協力をいただき実現が叶いました。この日のために事前に試作するなど周到に準備がなされ、素材の味を生かした当時は偲ばせる膳が出来上がりました。こうした舞楽関係者をはじめ多くの方々のご尽力により、細部にわたる忠実に再現され、舞楽人一同は古を忍びつつ美味しくいただきました。

古式舞楽奉仕者御芳名

（敬称略）

指南役	白幡	富幸	色香	朝比奈
副指南役	大場	篤	鈴木	勝浩
行事	天野喜久司		西野	徳重
齋行	野智加志		天野	健彦
師匠	小澤	廣一	安摩	白幡磨
	大場	詞信	嶋田	秀邦
	北嶋	恵介	岩瀬	公紀
	高木	明誠	成瀬	満享
	鈴木	勝幸	佐野	泰隆
	鶴見	俊之	野口	雅人
	小林	隆	鶴見	俊之
	村松	徹也	小川	正恭
	建部	春久	大場	和弘
	菅沼	千颯	塩澤	佳夫
	高木	凱矢	狩野	高士
	佐藤	瑞樹	鈴木	裕也
	村上	竜矢	村松	敬浩
太平楽				
稚児				
師匠				
衣裳方				
納蘇利				
獅子				



平成23年 舞楽人一同（4月16日）



巫女舞

〈左から〉
岩満 夏海・大場 美雨
嶋田 千夏・村松 牧歩



稚児舞

〈右から〉
村松 徹也・建部 春久
大場 隼磨・菅沼 千颯



太平楽

〈右から〉
高木 凱矢・佐藤 瑞樹
小池 竜矢・村上 慎

太平楽・稚児舞・巫女舞
奉仕者御芳名（敬称略）

鳥居 禮展の開催

現在、神宮式年遷宮の諸祭の絵を数々作成されており、ますます新大和絵の画家鳥居禮先生の個展が三月三十日より四月十八日に亘り開催されました。

今回は、「新大和絵の世界展」に続き二回目の開催となり、「霊峰富士と桜展」と題し季節感のある個展となりました。今年は桜の開花が若干遅れましたが、それを補うほどの見事な桜の作品が展示されました。また、日本の神々の作品も特別に展示され、幻想的な世界が広がっております。日本の代名詞でもある富士と桜にみられる気高さと美しさが調和し、古代の杜の春を一層清らかに、そして華やかに彩りました。期間中には川勝静岡岡県知事ご夫妻も鑑賞されました。また、開催後には絵画「群青の富士」一幅をご奉納いただきました。



川勝静岡岡県知事へご説明する鳥居 禮画伯(4月17日)

端午祭の斎行

端午とは月の端(初め)の午(うま)の日の意味で、午と五の音が通じることから五月五日に定着したといわれます。災厄を除ける行事として古く奈良時代から行われ、江戸時代には子どもが無事成長を祈る日としてお祝するようになりました。毎年五月五日午前十時より、当社にて命名されたお子様の無事の成長と無病息災を祈願する「端午祭」が斎行されます。本年は命名児七十一名とご家族のご参列をいただき祭典が執り行われました。

祭典終了後には、ご神前にお供えた神札・記念品・柏餅・しょうぶ・よもぎの葉が授与されました。今後ともお子様の健やかなるご成長をお祈り申し上げます。



端午祭・しょうぶの授与(5月5日)

本宮山青葉祭の斎行

五月六日(金)午前十一時、本宮山の頂(五一メートル)に鎮座します奥磐戸神社にて、本宮山青葉祭が斎行されました。この祭典では本宮山に自生する樹木の若枝を御本殿に飾る特別な習わしがあり、その若枝には甘い芳香を放つ黒文字の樹が使われます。当日は好天に恵まれ、御本殿前には五十五名の登拝者にご参列いただきました。祭典後、庁屋にて古式神酒のどぶろくと初鯉などにて直会が行われました。爽やかな風が吹き若葉の香り立つ本宮山にて、この時期にしか味わえない格別の時間をお過ごしいただきました。



本宮山青葉祭の直会(古式神酒の撤下)(5月6日)

「起きあがりこぼし」で義援金

小国ことまち横丁では、被災地の福島県の企業より会津地方の民芸品「起き上がりこぼし」を仕入れ販売し、その売上の全額を義援金とする相乗的な支援活動をしています。起き上がりこぼしは稚児をかたどった可愛らしい人形で、重りの働きで倒しても起きあがる縁起物として四〇〇年前から同地方に伝わっているものです。ことまち横丁には東北地方の早期復興を願う多くの方々より温かい善意をお寄せいただいております。また、製造元の企業からが込められた「ありがとう」の文字が並ぶ特製の「起き上がりこぼし」が届き、ことまち横丁の店頭飾られています。



会津民芸品「起きあがりこぼし」(ありがとう)

夏越の大祓式

六月三十日(木)午後三時より夏越の大祓式が斎行されます。

大祓とは、日常生活の中で無意識のうち、心や体についた罪やけがれを、身代わりとなる人形(形代)に移し、川に流して祓い清める神事のことを行います。

特に夏越の大祓では、梅雨の時期に多い流行病や疫病にかかることなく、暑い夏を健康で過ごせますようにと祈り、茅の輪くぐりが行われます。

当日は神職とともにお祓いをお受けいただけますので、是非ともご家族の皆様お揃いでお申し込みの上、ご参列いただきますようご案内申し上げます。

祭儀課大祓係



夏越の大祓式「茅の輪神事」(平成22年6月30日)



毎年、森町立旭が丘中学校の生徒達が植えています。

宮代神饌田「御田植祭」(平成22年6月6日)

花菖蒲の開花

門前の小園ことまち横丁の西側にある一宮花菖蒲園では新芽がすくすくと伸び、次々と開花が進んでおります。「初夏の風物詩」として親しまれる花菖蒲園は、約二〇〇坪の園内に一三〇余種の花々が早生・中手・晩生と咲き競い、六月下旬まで楽しめます。特に花菖蒲は梅雨空の下では一段と鮮やかに映り、花弁が三弁・六弁・八重咲きの種類があり、六月上旬に見頃を迎えます。

また、園内では開園期間中、花菖蒲の株の即売もしておりますので、お気軽に係員迄お申し出下さい。



一宮花菖蒲園(6月下旬迄開園予定)(平成22年6月6日)

古代の森シリーズ 32

鉾執社

参道を進み、手水舎を通り過ぎた左手に、鉾執社は鎮座しています。

このお社は、昭和六十三年九月二十日に末社として現在の場所に建立し、江戸時代の社家四十一家の祖先の御霊をご祭神としています。

「ほことり」とは、神主が読む祝詞の中の言葉であり「仲だち」という意味で使われています。神様と人との仲立ち、中執持の役目にあつた方々の御霊に感謝を捧げ、三月の彼岸の入りの日例祭はご関係の方々が参列し斎行されます。



境内末社・鉾執社

「小國の杜・点描」



ことまち池のヤブデマリ (5月4日)



大宝殿南斜面のしゃくなげ (4月27日)



斎館北側の八重櫻 (4月22日)



本宮山月次祭にご参列の方々 (3月6日)



天竜浜名湖鉄道線・遠江一宮駅キャラクター「だいこちゃん」(4月17日)

平成二十三年六月一日
 「玉垂」(たまだれ) 第三十二号
 題字揮毫 神社本廳元総長 工藤 伊豆
 発行 小國神社社務所
 郵便番号 四三七〇二二六
 住所 静岡県周智郡森町一宮三九五六一
 電話番号 〇五三八(八九) 七三〇二
 FAX 〇五三八(八九) 七三六七
 印刷 (株)デザインオフィス エム・エス・シー

表紙写真について

平成二十三年四月十七日(日)午後三時五十分、「民俗芸能・民俗行事公開大会」の勅使行列を撮影いたしました。約三三〇年前の古記録をもとに、行列の諸役を復興再現いたしました。

○「玉垂」三十一号をお届けいたします。四月の例祭関係を中心に「ご報告させて戴きました。振興会主催の勅使行列は三年連続の晴天となり、ほぼ予定通りに日程が進み、岩瀬会長以下関係者の皆様は安堵した様子でした。○地元崇敬者の方が参道脇に「十画」の種を蒔いてくださいました。将来は「南天」とともに冬の風物詩として育ててもらいたいものです。

編集後記



宮川沿のしゃが (4月22日)